

おかやまプレーパーク開催のきろく

開催日時：毎週水～日曜日

4月～9月 10:00～17:00 / 10月～3月 10:00～16:00

開催場所：国際児童年記念公園こどもの森（岡山市北区学南町3-6-1）

2020 まとめ

【記録】

開催日数 141日

参加者数 7,107人（子ども 4,123人、大人 2,984人）

ボランティアスタッフ 249人（一般ボランティア 5人、学生ボランティア 563人）

学生、一般の受入れ（授業、インターナショナル等）12人

サポーターの皆様

おかやまプレーパークをご支援頂き、ありがとうございます。

明平 深雪	浅野 泰昌	市岡 真理	片岡 敏之	河瀬 祥子	他 2 名
河瀬 陽紀	神志那 民代子	古山 千賀子	後藤 敏恵	貞光 敏江	他 1 団体
田中 裕子	田中 裕希	玉井 とし子	徳田 文美	徳田 包文	
徳田 睦美	道仙 八代己	中川 薫	南田 以久子	南田 章滋	
西崎 由佳	藤井 奈津子	船田 文子	美咲 美佐子	光畑 光恵	
宮田 和子					

赤い羽根共同募金

「地域ささえあいプロジェクト」にご寄付いただきました皆様

今年で4回目となる募金活動に、今年度も多くの方のご支援をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで目標の100万円を超え、1,930,000円の配分金をいただくことができました。プレーリーダーの person 費、研修費等々に大切にに使わせていただきます。子どもがのびのびと自由に遊べる場、人と人と関わりつなげる場を大切に、日々研鑽してまいります。

おかやまプレーパークには、赤ちゃんから小学生、もっと大きな子どもたちまで、いろんな子どもが遊びに来ています。あなたも、プレーパークの運営に関わってみませんか。

おかやまプレーパークでは、サポーターを募集しています。サポーターには、活動記録等を年1回お届けします。プレーパークの運営には、経費がかかります。例えば、プレーリーダーの person 費、材料、工具…等々。サポーターになってくださる方が1人増えることで、その分だけプレーパークを続けて行くことができます。

遊び場の応援団として、あなたの参加をお待ちしています。

●サポーター：1口=1,000円/1年分（4月～3月）



特定非営利活動法人
岡山市子どもセンター



〒701-0144 岡山市北区久米348番地
TEL. 086-242-1810
FAX. 086-242-1830
E-mail. info@kodomo-npo.jp
http://www.kodomo-npo.jp



おかやま プレーパーク REPORT 2020

特定非営利活動法人
岡山市子どもセンター

おかやまプレーパーク 2020年度をふり返って

コロナ禍のなかでの試行錯誤、 子どもたちに本当に必要なことは？



2020年度は、コロナ禍で始まりました。それにくわえ、行政との危険管理の見直し等の話し合いもあり、例年より80日程少ない141日の開催になりました。

子どもの命を守ること、子どもの遊びを保障すること、どのようにバランスをとっていくかを悩みながらの一年でした。

今までになく地域の小学生の参加が多いことも今年の特徴でした。「密、大好きなんだよね」「行く所ないんよ」「暇だから来た」などの声と共に「今を見て欲しいのに・・・」。数日休んだ後、学校に行くと、「なぜ来なかった?」「どうしていたの?」とまず理由を尋ねられる。今、学校に居る自分を見て欲しかっただけなのに。

コロナ感染という突然の出来事に、子どもたちはますます不安を抱え、その不安を声に出す場も身体で表す場もない状態が長く続きました。おかやまプレーパークが人と関わりながら、少しでも自分を表現できる場であるようにと、会話を楽しみ、可能な遊びを色々と考えました。様々な子どもたちの声や表情が出たことは救いでした。

コロナ禍であろうとなかろうと、子どもたちが今何を考え、何を欲しているのかを、子どもたちの行動や言葉から読み取っていくことの大切さを身をもって感じました。子どもの目線で関わることをいつまでも大切にしたいと思っています。

おかやまプレーパークについて about PLAYPARK



プレーパークは1943年にデンマークで誕生した子どものための遊び場です。日本では、1979年に行政と市民による協働運営で世田谷区の国際児童記念事業として「羽根木プレーパーク」が誕生しました。現在、日本では400以上の地域でプレーパークの活動が行われています。

私たちが岡山中でプレーパーク活動を始めたのは2001年3月。子どもの「やってみたい!」を大切に旧出石小学校校庭や大供公園で開催し、その後、日常的に自由に遊べる場を目指して2008年4月にこどもの森で週5日連続開催を始めました。子どもたちは失敗や成功を繰り返し、様々な人との出会いや関わりをとおして自分らしく居られる場をつくっています。今では、大人にとってもほっとできる場になっています。

岡山市から受託している「岡山市プレーパーク普及事業」や「緑の遊び場プロジェクト」も含め、子どもが豊かに育つ地域づくりを目指し市内にプレーパーク活動を広めています。子どもが自由に居られる場を市民や行政、様々な方と一緒につくっていきたくて考えています。

プレーパークコラム 遊びが生まれる時

プレーパークには、色々な遊びの材料が置いてあります。

使い方は、君しだい!! 「なんで?」「楽しそう!!」「あ～してみよっかな?!

「こーしてみよっかな?」「そうだ!いいこと考えた!

いろーんな発想が、遊びになり、広がっていきます。



「台車遊び」

台車の上にイス。遊びながら、終始ゲラゲラ笑っていました。なんでそうしたのはわからないし、なんで笑っているのかわからなかった。でも、その楽しそうな姿に、こちらが笑ってしまった。



最初は、みんな乗って楽しんでいました。けれど、1人がひっぱると、みんながひっぱりだす。空いた席には妹たちを乗せて、楽しそうにひっぱっていました。

「遊ぶ」は生きた証 = 自信



「ギッコンバットンシーソー」

両サイド1人ずつ。真ん中に2人。
シーソーには色々な楽しみ方があるようです。



「転がすのは…」

三輪車を持ち上げようとする。でも、持ち上がらない。つぎは、二輪車を持ち上げてみる。できた!
二輪車を転がすわけではなく、ガムテープを転がす。満足!

「あーしなさい」「こーしなさい」と言われるわけでもなく遊ぶ子どもたち。

自分で決めるという「遊ぶ」経験は、自分を信じていることそのものです。

この経験が自信につながっていきます。

「プリンセス遊び」

プリンセスのかわいいふわふわの服を着てきている子どもがいました。それを見て、プリンセスのようなふわふわのドレスが欲しいと女の子。そこで、プレーリーダーに作ってもらいました。その後、ドレスがぐずれないように、歩く時は、そーっと。動きは、できるだけ少なく。プリンセスは色々大変なようです。



「ぼくらのしるし」

いたずら描き発見!!
近くにはだいたい名前やイニシャルが書いてある。きっと、その時は、今を楽しんでたんだらうな～。



「へび発見」

「見て!! へび!!」と子どもから声をかけられた。おかやまプレーパークに7年間くらい来ているけれど初めて気づいた。ぼーっとしてるように見えるけど子どもって、よく見てる。



「好き、だから作る」

車が好きで、今、牛乳パックカーにハマっている男の子。段ボールを家から自分で持ってきて、大好きなランボルギーニの設計図をかいて、色々な人に協力してもらいながら、完成したようです。ガルウィングも再現されていて、色々なところが細かく作られていました。誰かに褒められるわけでもないのに、本人はとても満足そう。それって、大切だな～!



「俳句」

工作の道具を片付けていたら、置いてあった俳句。
なんだか、よかった。

「タイヤのおうち」

小学生の女の子たちが、タイヤでお家をつくり、入口には看板が。入場料1万円!!(…僕には大切すぎて見える。)



「ルールも作る」

なんだかおかしい。
マス目が小さいのやら、大きいのやら。
だから、社会的ルールが通用しない。
やってうちに2人の新たなルールができていく。
・駒を転がして当てたらひっくり返せる。
・爆弾を仕掛けることができる。
・転がした時に爆弾に当たると全部ひっくり返る。
などなど。
お互いに自分が有利になるようにルールをつくっていく話し合い。
聞いていて楽しい。



「遊びの連鎖」

ひとりの子どもが木材を使って船をつくる。
タライに水をためる。
船をタライの水に浮かべる。

それを見た別の子どもは、木材でつくった鉄砲が船にわり、水に浮かべる。

それを見たプレーリーダーのマッキーは大きな海が作りたくなり、海をつくる。

それを見た子どもたちは、船を浮かべる。
そして、自分自身も海に入る。

それを見た中学生が温泉をつくる。
温泉感を出すために、家にバブをとりに行く。
温泉が完成!!
あ～楽しかった～。

「牛乳パックカー工作」

牛乳パックカー工作は、参加者親子20組くらいで大盛況。この日は2時間かけて7メートルのコースを作りました。黙々と工作に熱中した後は、コースを使ってレース。そして次は改良や改造。大人もいつの間にか真剣に工作に夢中になってしまう。それがこの遊びの魅力です。

